

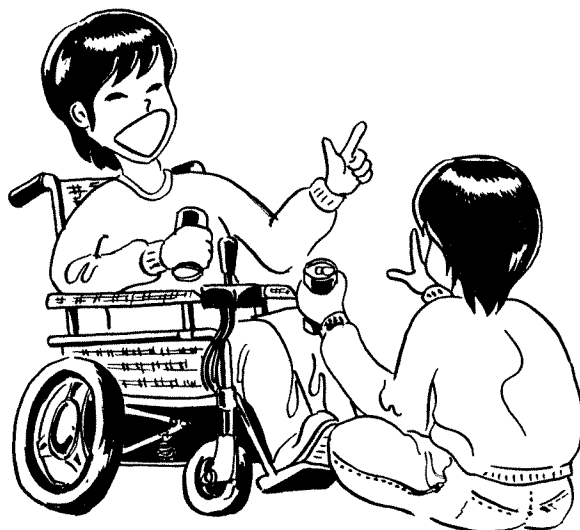
思い合い……交差点で

「手をお貸ししましょうか。」

「は、はい、ありがとうございます……」

「どちらまでですか。」

「信号の向こう側の……。」



私のように車椅子を使って移動する者に、この様に声をかけてくださる方が多くなってきました。でも、自分で移動できるときには、お断りしようか、それともお受けしようかと迷ってしまいます。

そんなとき、私は断ることはしません。

それは

声をかけていただくことは、そのくらい大変ありがたいことなのです。

これは、車椅子バスケットの選手をしているAさんから聞いたことです。思いやりというのは一方的であり、双方向の関係、いわば思い合いを目指そうという声があります。「助け上手に助けられ上手」という言い方もありますが、皆さんはどう思いますか……

空欄で、Aさんはこう言っています。

ここで断ったら、本当に介助が必要な時に声をかけてもらえないかもしれない、もしかしたら、他の障害者に声をかけることをやめてしまうかもしれないと思うのです。自分の力でできるときでも、声をかけてくれた方への感謝の気持ちをこめてお断りしたくないのです。